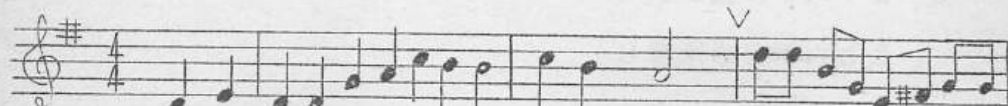


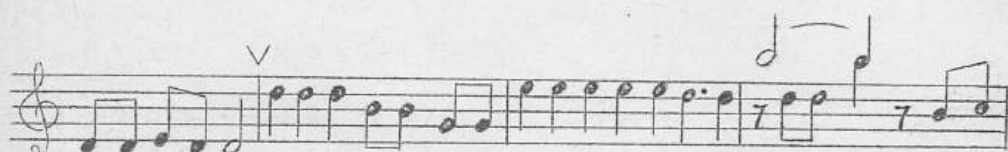
# 水 泳 部 歌

作詞 古 林 喜 楽

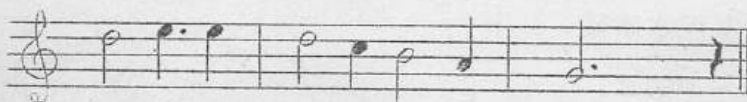
作曲 山 田 貴 彦



1. ま や 六 - 甲 - に い だ か れ て こ こ む こ が お か の  
 2. フ リ - ー プ レ ス ト バ タ フ ラ イ バ ッ ク - リ レ -  
 3. あ あ な つ か し の す い え い ぶ ろ っ こ う だ い の -



み ず き よ し ち め の う ら わ を み お ろ し て - し ぶ き を あ -  
 ポ ロ ま で も り よ う え い け ん じ の い き た か し い ざ や き そ  
 プ - ル ベ に つ き み の え ん で - お よ ぎ や め く る な つ ま -



げ る け ん だ - ん じ  
 わ ん う で を - ぶ し  
 っ て い き い り た つ

部

歌

古 林 先 生 作 詞

1. まや六甲に抱かれて  
ここ六甲台の水清し  
ちぬの浦和をみおろして  
シブキをあげる健男児

2. フリ プレスト バタフライ  
バック リレー ボロまでも  
俊泳健児の意気高し  
いざや競わん腕を無し

3. ああなつかしの水泳部  
六甲台のプール辺に  
月見の宴で泳ぎやめ  
くる夏まっていきりたつ

## 先輩からの便り

### かるもプールと私

古 林 喜 楽

毎月の定例日に、凌泳会の面々と、かるもプールで泳ぎ、そのあとジョッキを傾けるのが、なによりの楽しみで、神戸不在のとき以外は皆勤し、一度は家内と二人だけというようなこともありました。この懐しのかるもプールとも、お別れしなければならぬいかもわからないことになりました。

この三月、二度目の定年で医学をやめた途端、豈はからんや、広島商科大学の又々学長を引きうけざるを得ない破目に陥ってしまったのです。そんなことでこのところ、かるもプール通いにも欠席を重ねています。広島商科大学は、修道学園の経営になるもので、修道といえは昔水泳でならした修道中学を思い出されることと思いますが、今も大学には、田口君や本多君のようなオリ

ンピック選手が在学しています。来年のミュンヘンでは、久かたぶりに水泳日本の嬉しい場面が開かれるかも知れません。

ところで広島には、藤田ドルフィン立派なプールがありまして、神戸のかるもプールなんか物の数ではありません。神戸市よ／＼頑張ってくれと言いたいところです。プールは広島の方が立派ですが、かるもでは凌泳会の面々に会うことができます。どうやらこのかねあい、私のこれからのかるもプール出席率がままりそうです。

### 兵庫県水泳連盟創立四十周年と

#### 私の水泳に関する思い出

学 3 宮 本 伯 夫

今年三月中旬頃、兵庫県水泳連盟会長吹田大輔君から突然水泳連創立四〇周年記念式を兼ね、懇親会をやり併せて、全水連に功績のあつた者（二〇名）を表彰したので、四月三日午後、神戸突堤ドイツ汽船某号キャビンに来る様にと鄭重な案内状を戴いた。正直に言つて私は戦後会社の仕事が非常に忙しかったことと、（戦後川崎造船代表取締役、二十五年川崎航空機重役から川鉄千葉工場建設副委員長、営業担当常務を経て、↓現在川鉄コンテナーク・Kの社長）、年令のせいもあつて（今年六十二才）若い

224 312 6P28

時あれ程情熱をたぎらせ、生甲斐を感じていた水泳のこと等、な  
んだか遠い昔の夢の中の出来事の様な感じがして、少しも感興が湧  
いて来なかつた。だから、誠に申し訳ない話ながら、凌泳会の会合  
案内が来ても何時も欠席し、凌泳に寄稿したこともなければ又現  
役諸君の職務報告書なども殆んど読んでいなかった。

ところが、偶々四月三日は神戸に居合せたし、折角の御案内で  
もあるので、所要のため一寸遅れたが出席してみたところ、昭和  
五・六年頃から十五年頃迄の昔のなつかしい河童連中が大勢集つ  
ていた。会長の挨拶と謝辞が終つて、神戸商大より小山賢之助兄  
(学1)、野村弘君(学5)、小生、の三名が表彰され、立派な  
記念の置時計を戴いた。三名は、戦前兵庫県体育協会(水泳部)  
・・・之が現在の兵水連・・・の理事で又上部団体である日本水  
上競技連盟の兵庫県又は、在京代議員であつた。小生は更に神戸  
インターカレッジ(商大、園学、高等商船、高等工業、姫路高校  
県立高商・の六校)の名譽主事及び、関西インターカレッジの役  
員と後記する様に全川崎水泳部の幹事長をしていた関係上、兵庫  
県体協の実業団及び青年団部の面倒をみていたことが表面上の理  
由であつたらしい。

懇談会に移つて来会者、特に関学のOB連中から、よく来て呉  
れたと言つて非常になつかしく話しかけて下さつた。昭和十一年  
から十四年夏までの公式試合には大抵出発合図員とか審判主任等  
の役をしていたので、知人も多く其の頃の思い出話や、又当時華

やかであつた全川崎水泳部の話など次々と出て、とてもなつかし  
く楽しいひとときであつた。

それにしても、関西学生水泳界の名実共に育ての親であり、私  
は下記する様に、直接非常に御世話になつた藤井正太郎先生が、  
昨年九十才の高令で御逝去され、あの白髪の子顔と、慈父の様な  
お優しいお言葉に接することが出来なかつたのは、実に淋しい限  
りであつた。これは出席者全員の気持ちでもあつたらうと思う。

つい、二年程前の夏、元町の通りで偶然御婦人同伴の先生にお  
会ひした時、先生から、宮本さん、この人ネ僕のセカンドワイフ  
ですよ、と言つて御紹介して戴いたが、其の時の先生はお元気で、  
とても楽しそうであつた。私は其の時、何れ後日ユックリ御伺ひ  
して昔話等致しましょうとお約束しておきながら、遂に約束を果  
さなかつたことは誠に申し訳なく又残念に思つている。

藤井先生で思い出したが、雑誌凌泳の表紙の題字は先生に書い  
て戴いたもの、しかも私がお願ひに上つた様に思うが、其の  
へん余り記憶に自信がない。御記憶のお方があれば後日お知らせ  
願ひたい。

以上で、兵水連四十周年記念行事に關する報告は終ることによ  
るが、この会合に出席してから間もなく、雑誌凌泳十八号が送ら  
れて来た。同時に五月末日迄に何か記事を書いて呉れと依頼状が  
来たので、兵水連のこと丈でも簡単に報告してお茶を濁しておこ  
うかと思つたが、昔自分が責任をもつた仕事及び之に關係したこ

などは既に三十数年も経過して、当時のことを記憶している人が段々少なくなっているので後日何かの参考になるかも知れないから、ついでに何んでもよいから書き添えておこう。例えそれが価値のないようなことであろうと、或は又そのことが事実なら、例え自慢話になろうともかまわない、など思っているうちにいや是非書かねばならぬと、むしろ責任の様なものを感じて来たのでペンをとった次第である。以下思い出すままに学生時代の水泳と卒業後、凌泳会の世話をしていた当時のこと及び、商大水泳部とは同じ地元で色々関係があつた日本最強の実業団チーム、全川崎水泳連盟の創設と消滅の始末記の様なことを書いてみることにする。

私は昭和九年、上筒井校舎最後の卒業生であるが卒業式丈は、工事中の六甲校舎の講堂で行われた。従つて水泳の練習は上筒井の粗末な二十五米、五コースのプールでやつた。三商大戦に備えて合宿は裏通りにあつた学生会館を利用した。同期には板野亀八郎（自由型、背泳）、岡康五郎（平泳、自由型）、小西熊雄（短距離）の三君の様な優秀選手がいたが、私は短距離は駄目で、ただ馬力があつた丈のとりにえて中長距離を練習した。

一・二年の時は練習をサボリ勝ちであつたが、三年の時は熱心に練習した。しかし御話出来る様な記録は一つもないが、唯、三年の時、三商大戦で四〇〇米か八〇〇米かに二位になつたこと位である。

水泳部長は、北村五良教授、副部長は、温厚篤実よく水泳部の面倒をみて下さり、御自身泳ぐことに格別御熱心で、新婚ホヤホヤの古林助教が居られた。

練習は、四月終り頃から初め、試合の皮切りは対校戦として日本が一番古い歴史をもつ、対大阪商大戦である。一年生か二年生の時だったか、浜甲子園二十五米プールで試合をした当日、ドンヤ降りて、八〇〇米自由型の時、審判がラストコールの鐘をならすのが折り返し一回分早くか、或はおそくならしたとか又、長雨でプールの水も濁っておりコースも多少緩んでいた為、どちらの選手だったか忘れたが、ターンした時隣のコースに一寸入りかけた事で問題になつたことがあつた様に思う。尚、三年の時（昭和八年）当時漸く、水球が盛んになりつつあつたので、競泳の対抗戦とは別個に当方の申出により、練習試合と言う意味で水球の試合をしたのがキツカケとなつて爾来、定期戦の中に水球が加えられることになつた。此の水球をやる為に、神戸市民プールを使用した。勝敗のことは覚えていない。尚、一年生の時和歌山高商に親善試合に出掛けた事があつたが、其の後試合した事はない。

次は神戸インターカレッジの番だが、三年生の時は神戸市民プールだつたと思う。随学が一番強かつた。二位は何時も当方であつた。話がきれるが、高等商船の選手は、我々の服装がダラシないのにひきかえ純白の制服をキチンと着て態度もキビキビとしていた感じがよかつたことを思い出す。

七月上旬が三商大戦であるが場所は、關東、關西交互で三年生の時は宝塚五〇米プールであった。私は此の時、四〇〇、八〇〇八〇〇リレーに出場した。一ツ橋にはオリンピック選手の清川君が居て背泳、短距離（フリー）、リレーに出られて苦戦したが、我方は野村弘君が頑張つて呉れて、辛うじて優勝した。

九月上旬の關西インターカレッジは、醫學、醫大、同志社が居て我方は余りふるわなかつた。だが一年、二年生の時は、平泳陣で、小山、鍵本、熊野の三先輩が断然、光つて入賞していた。之が終ればシーズンオフとなり前期の試験になった。

それにしても上筒井時代は、あらゆる意味でよき時代であつた。三年生のとき、昼から古林先生がプールに来られて我々が練習している横で泳いで居られたが、急に上つて時計を見て急いで身仕度をされるので、つい私が、先生、もうお帰りでですか。も少し遊んで行かれませんか。と言つたところ、アア講義があるんでネエ。と言つて帰られた。之には私共参つた。なんせ私と尚君が先生の経営勞務論の講義をとつていたことは、先生百も御承知で忘れていたのは私達の方である。そこで、先生より遅れて教室に入るのは失礼になるのでザボつて練習を続けたことがある。又、たまには、先生の講義に出席しなければ先生に対して失礼だし、又尚君と二人が出席していることを先生に確認してもらふ意味もあつて、最前列中央に陣取つて、さも真面目な学生らしく、講義を聞いていた。所がいつのまにか練習の疲れが一度に出た為か、二

人共熟睡して仕舞つた。講義が終つた時の些の拍手に驚いて、目が覚めいそいで体裁を宜敷つくろいながら顔を上げてみたが、後の祭、先生の姿はもうなかつた。此のことについて後日先生から何んにもお叱りを受けたことはなかつたが、先年、先生が千葉に來られた時、この一件を随筆（教授、学長、学生）に書いたよと言われて随筆集を下さつた。帰つて早速、一読して見ると、神戸大学の丘をおりつつの項に載っている。これは、先生の筒井台四十六年間の思い出の一つとして書かれてある位だから、当時先生は余程、腹に握えかねた無礼千万の奴だと思われていたに相違ない。四十年近くも昔のことではあるが、時効ということもないので大変おそくなつて申訳ありませんが、誌上を借り茲に謹んで、御詫び申し上げます。

私達の現役時代は、合宿、遠征等、殆んど自費でやつていて、凌泳会からの補助等は少なかつた横記憶するが然し、試合当日は大勢、先輩が來られ役員として御手伝いは勿論のこと、その後の残念会であれ、祝勝会であれ、歓待して戴いて大いに騒いだ。特に大谷規之輔先輩には、大阪一流料亭に連れて行つて戴きそれは豪勢なものであつた。今考えてみても、よくまあ、あの様なことが出来たもんだと感心の外ない。

さて私は卒業して川崎重工に入社した。当時神戸には水泳部の若手の先輩が殆んど居られなくて、専門部二十五回卒業の香山孝一兄（当時神戸海運集合所に勤務）が、凌泳会の世話をして居ら

れた。時々プールに来て練習にはやかましかったが、一方色々私にわたりお世話になっているが、昭和十二年(?)頃、日支事変に応召せられる時、今後凌泳会の世話を私にやれと云われた。元來、頼まれれば余りいやと言えないたちだから引受けることにした。

仕事は現役との連絡、試合のスケジュールと結果報告、会費の徴収と部費の補助等位であるが、同時に引継いだ神戸インターカレッジ名誉主事の事はちよつと手数がかかった。試合の開催日使用プールの選定(殆んど川重のプールを無料使用)、番組の編成、役員の割振り、プログラムの印刷と広告取り、其他雑用が多かつたが、会議等は何時も藤井会長宅で開催し、夕食を全員御馳走になつたり、そのほか色々とお世話になつた。

関西インターカレッジの方は、当時の現役学生が自主的に運営して居て(神戸商大が推薦されて運営していた)私達OBは只試合当日、競技役員として出席する文で別段仕事はなかつた。以上のようなことで、凌泳会の仕事は大したことではなかつたが、私はいかにこれ以外に後記する様に、全川崎水泳聯盟の仕事に全精力を傾倒していたので、その頃の夏はほんとに多忙な生活であつたが何分にも若かつたし、好きな水泳のことだからとても楽しかつた。

然しながら昭和十三年頃から日支事変は次第に拡大されて、毎日心召者が相次ぎ、私も予備役陸軍主計少尉であつたので、何時召集されるかと心配していたが、遂に十四年八月、令状が来た。

後事を当時神戸に居た世話好きの好人物、大野整君(学4)と、此の年川重へ入社し凌泳会及び全川崎水泳部の仕事を手伝つて呉れていた村上秀造君(学7)に托して、勇躍中支の第一線に征つたので、其の後のことはわからない。両君が其の後のことを既に本誌に書かれたかも知れないが、若しまだなれば是非とも統いて書いて戴く様お願致します。

次に実業団、水泳部として彗星の如く現われ、たちまちのうちに全国を制覇し、又数年を出でずして戦争のためあえなくも消えて行つた全川崎水泳聯盟のことを駄足ながら、地元神戸のこともあるし又、当時の現役部員諸兄とは何かと関係が深かつたので、その始末の概要を附記させて戴きますから、水泳愛好者諸氏には唯、昔物語として軽い気持ちで御読み願えれば幸甚です。

私が入社した当時の川崎重工は非常にスポーツが盛んであつたが水泳部がなかつたので私は、昭和十一年春、本社及び艦船工場の水泳同好者を募り水泳部らしいものを作って、退社後市民プールに遊び旁々練習に行つていたが、何分にも西代までは交通不便で遠いので、当時の松村専務(凌霜一回卒業生)に二十五米の安いものでよいから、練習プールを作つて欲しい。工事予算は大體この位です。工場の防火用貯水池にもなりますから等、勝手なことを並べて再三お願いした甲斐があつて一応許可になつた。

それから私は他の工場即ち、兵庫工場、製鋸工場、及び系列の車輛、航空機、汽船の各会社に呼び掛け、俗趣ながら自から幹事

長兼小使となつて全川崎水泳連盟の組織化と水泳部の充実強化に本格的に取り組んでいたところ或る日、社長からプールを作るなら日本一の五十米プールを造れ、そして強い水泳部になれと直接言われて、感激すると同時に驚いた。当時民間会社で公認五〇米プール等を持っている会社はなかつた。このあたり流石に、鑄谷大社長の面目躍如たるものがあつたと、今でも敬服している。

さて私は事があまりにも大きく飛躍して来たことに責任を感じた。特に如何にして強い水泳部にするかと言う事には尠なからず不安を感じた。まず建設するプールの機要を具体化するため、東京に出張（当時私は入社後僅か三年のヘッポコ営業掛員であつた藤井先生の紹介状で、日本水上競技連盟本部のプール建設技術専門家、飯田氏（？）を尋ね、種々御指導を得た。ついでに全氏の御紹介で代表的な五〇米プールとして（当時五〇米公認プールは日本全国で六ヶ所しかなかつた）神宮、名古屋清州、出来た許りの甲子園の各プールを視察旁々、設計図並工事費内訳等、貴重な資料を載いて帰り、更に藤井先生と種々相談の上、プールは五〇米、八コース、五米の飛込台を併設、日本水泳公認プールとすること、更に神戸市は毎夏、水道の水が不足勝ちであつたので、当時としては画期的な循環式濾過装置（塩素滅菌装置付）をつけること。又数百人の観衆を收容出来るスタンドをつけること等を、希望として会社に報告した。その尽採用されたが、工事は大分遅れて、翌十二年六月二十四日愈々プール開きのはこびとなつた。

プール開きには、衆承知の通り余興として特別の行事が必要であるが、この行事一切も一任されたので、上京して当時世界を制覇した日本水上オリンピック選手の属する各大学水泳部を歴訪して来場を依頼した結果、競泳、飛込み男女選手、十二、三名の参加を得て夫々、模範競泳や飛込みの妙技を、又藤井先生初め数人の大先生から古式に即つた日本古来の各流派の秘伝を夫々御披露して載き、最後に水球の模範試合（？）を神戸商大と興学の現役の連中にお願ひしてやつてもらつた。

一方、強い水泳部をつくるには強い若い選手を多数入社さす事が最短距離と考へた。幸に人事部も非常に好意的であつたので私は其の後優秀選手の入社勧誘に努めた。十一年秋頃からポツポツ入社し初め、十二年四月には、中等学校卒業の可成りの選手が、五・六名入社して来た。入社保証人には私になり、所属も練習に差支えない様な部署に配置してもらい体連から補助を得て合宿練習を共にした。又各選手の練習の爲の早退其の他については夫々の職場の上司も非常によく協力して下さつたので、選手達も大変喜んで練習に励んでくれた。

最初の対抗試合は、八幡製鉄と定期戦を誦き先方を招待して庄勝した。更に十三年・十四年には、インターミドル決勝又は準決勝に残つた様な一流の優秀選手が沢山入社して来た。御蔭で、十三年には実業団及び青年団として幾多の日本新記録を創し、神宮プールで全国優勝し日本最強の実業団及び青年団チームとなつた。

翌十四年、八月上旬私は応召し、中支の山奥で 戦斗に参加して  
いて、水泳のことなどすっかり忘れていた頃、第二回目の全国優  
勝の新聞記事と手紙が届いた。尚其の後、十五年・十六年と連続  
四回優勝した。昭和十三年頃、多数のオリンピック出場選手を擁  
し、大学水泳部として日本最強であった慶応水泳部は九月の全日  
本学生選手権に備えて合宿練習するためプールの借用を申し入れ  
て来た。プール詰きに世話になった関係もあるので使用させて、  
練習試合も時々やった。当方には、選手の数が多くチームとして  
の實力は互角、或はそれ以上であった。

当時の社会情勢下において、家庭などの事情で就職を希望する  
インターミドルの優秀選手を多数採用し、斯くまで強大になった  
の批判が私に向けられて居たことは気付いてはいたが、会社の  
方針は優秀選手の入社後の将来等を充分考慮していたし、又、是  
非とも立派に育成して、オリンピック選手を当社から出す事を念  
願としていたので、問題はないと思っていたが、先年亡くなっ  
た日本水連関西支部長、高石勝男氏から、或る試合の終了後、面会  
を求められて、川重が若い優秀選手を沢山採用することは自由だ  
が、オリンピック選手になれる様充分な練習時間を与える事が出  
来るか又、会社のオリンピック選手養成に対する考え方如何と言  
う様なことで、批難されお互に大いに議論したことがあった。こ  
のことは、当時の水泳界では、かなり広く知られていたらしく、

先般の兵水連、四十周年記念の会合の席上で、全川崎水泳部の話  
が出た時、小山先輩からも此の件について、君は高石さんと相当  
やった事があったネと言われて思い出したので、特に附記してお  
く。

然しながら其の後不幸にして、戦争は益々拡大してゆき、これ  
ら優秀選手も続々と入営又は応召していった。そして昭和十七年  
以降は御承知の通り戦争のため水泳ドコロではなくなった。斯く  
て、さしもの全川崎水泳部も自然消滅の形となった。尚戦後プー  
ルは長く進駐車に接収されていた。

以上の様な次第で、実業団として、無敵の水泳部は二年半とい  
う最短期間で編成され次の四年間という催かな間ではあったが、  
華々しい戦果を収めた。然しそれも戦争という巨大な鹵車で無惨  
にも噛みくだかれ、やがて、うたかたの如く消え去って行った。  
今にして思えば、まほろしの日本最強実業団チームの様なもの  
であったと言われるかも知れない。以上が初めて全貌を明らかに  
した戦前の全川崎水泳部の始末記の大意である。

昭和九年から十四年夏迄の私の水泳関係は実に多忙であった。  
希望と抱負に満ち満ちて、生甲斐を感じた一番華やかな青春時代で  
はあったが、それも、花一朝の夢、今この稿を書きながら当時を  
追想して感慨無量である。

追記、私も今年六十二才、三十数年昔の記憶であるので多少、  
枝葉の部分で間違っているかも知れない。若し御氣付きの点あれ

ば御指摘願ひ度い。

## 身辺雑話

学 8 大 内 義 仁

何時も母校水泳部より御連絡いたゞき乍ら、卒業後の旅から旅への生活と多用のため、失敬して相すみません。「凌泳」発行の機会に、誌上をかりて久々に諸兄にその後日物語御報告旁々一筆申し上げます。

一、カップの話 — まことにカップの申し子

水に恵まれた広島に生れ育つたためか子供の頃より水に親しみ、中学、高校時代を通じて水泳部生活、高校卒業後も六甲山麓のプールに心惹かれて、大学入学と共に水泳部に入り、主として背泳と水球。

お蔭で未だもって若さと美容を保っている次第で、げにやカッパの生活こそ、吾が生涯に於ける忘れ得ぬよき日々であつたと感じております。

三、職業の話 — 各地転々

大学を出て大セル入社、堺工場現場をウロウロしているうちに、東京の歩兵部隊に入隊、勤務を終えて職場に復帰し戦時中の勤労業務、終戦となるや、原爆にいためつけられた郷里広島

市に自ら引揚げ、専ら親戚縁者の応援をやっているうちに、縁あつて三菱広島造船所に入社、爾来水に縁の深い造船業の營業に従事、次いで広島より神戸に移り現場營業より營業所勤務、そのうち会社合併と同時に、北歐海運国の雄ノールウェイ国の首府オスロー市に駐在員として派遣され、三年余の現地生活の後、東京本社に帰つて輸出船營業を担当、年輪めぐりて昨秋定年に到達し、本年五月より提携先の名村造船所（東京事務所）に出向となり、今日に至っています。

以上御覽の如く、生れて以来、広島—神戸—大阪—広島—神戸—オスロー—東京と転々としたため、日常は未だもって旅人暮しの如き感じであり、長らく失礼していますが、稼業は船大工の營業と之亦水に縁深いことゝ思っています。

三、北歐の話 — 特にノールウェイのこと

(一) 自然はきびしいけれど、空気は澄み切り清澄の世界、それといさゝか神秘的。

(二) 人は純朴にして、美人多し。

(三) かゝる御清潔なる文明国がこの地球上に未だ残っているかとおどろきもし、又嬉しくなるお困柄。

(四) よつて、思い切り深呼吸したい大和男子は、生涯のうち、是非一度は訪問されることをおすすめしたい。特に五月央より八月末頃までが絶好のシーズン。

四、家族の話 — お若い、所以

妻健在、長女は昨秋ゴール・インしましたが、次女、三女は家庭にあり、(即ち、吾が環境はオール、レディースに囲まれあり、お若い、所以の一つか)

カッパの悴でよき花嫁をおさがしの向は、御一報願えれば幸甚。

以上勝手なカッパ記、御寛怒の程。(おわり)

## 沖繩に潜る

学22 石井義章

世はあげて、レジヤーにうつつをぬかす。GNP世界第何位とかの経済成長に加えて、適休二日制が、次第に一般化して来ると、ひまをつぶすのに苦勞する様になつてくる。ついこの間まで、働く事が美德であり、遊んでいる事は罪悪と云う倫理観が、逆転した様な感じさえる昨今である。

さて、頭に皿をのつけた凌泳諸兄には、水に関するレジヤーに興味をお持ちの方も多しと思われるので、昨夏私が経験した沖繩での潜水を御紹介したいと思います。

小生、三年程前からスキューバ潜水を始めた。俗にアクアラングと謂うが、これは商品名だから、普通名詞としてはSCUBA

(Self Contained Under Water Breathing Apparatus)

が正しい。神戸アクアラングに所属し、日本海とか淡路島とか、あちこち潜りに出かけた。泳ぐ事それ自身が楽しいと云う事は今更多言を要しないが、その上、未知の海底を探訪し、水族館でしかお目にかかれない様な、色とりどりの魚が、自然のまゝに泳いでいる様を見る事は、スモッグの都塵をはなれて、さながら竜宮城に遊ぶ心持である。更に時にはタコをつかまえ、或はサザエやアワビを引上げて浜で炙焼きにしておぶりつくなど、野生に帰った心地で又格別の味である。ましてウエットスーツなる、ゴム製の服を着ると冬でも潜れるのだから(事実十月から十二月初旬までが水も澄み、水温も高く、最適のシーズンである)、温水プールなど云はなくても、古林先生ではないが、一年三百六十五日泳ぐ事が、即座に実現する訳だ。

さて、前おきが長くなつたが、昨春、クラブの会長池原氏が、日本海は竹野の海へ潜りに行った際、偶々沖繩より海底観光開発の視察に来ていた、恩納村(オンナソン)の村会議員と同宿し、旅館の女将の紹介で、話している内、一度海底調査をかねて、沖繩へ潜りに来ぬかと云う事になった。

この話を聞かされて、当初我々も旅先での一夜の話し合いで、果して実現するのかと、半信半疑でいたが、クラブのリーダーの熱心な折衝で、次第に具体化し、云われるままに、渡航申請だ、種痘だどやっている内に何となくその気になって、台風九号がやっとおさまつた八月二十三日、一行十五名、伊丹空港より飛立つた。

伊丹より沖縄迄飛行時間二時間と聞いていたが、これはエプロンに入ってモタモタしている時間も入れての話。正味離陸してから、着陸するまでの時間は、一時間三十分。やれ淡路島だ、<sup>北</sup>鹿浜だ、鹿兒島湾だとワイワイ云つてる中に海ばかりになって、機内で出された食事をパクツていると「ベルトをおしめ下さい。間もなく那覇空港です」とのアナウンス、おやおやと思つている間もなく、機は滑る様に着陸した。ここは米軍の基地と同居しているだけにやたらに米軍機が目につく。又写真撮影も厳禁されているとの事だ。冷房のきいた機内から出るとむやみに暑い。太陽が目もくらむ様にギラギラ照りつける。

ここは国際空港となっているが建物は至極おそまつ。国内の地方の飛行場程度。おきまりの入国手続。通関をすませ、一步場外に出ると、ここはも早日本の治政の及ばぬ土地、通貨はドル、車は左ハンドルで右側通行。日本の様で、日本でない国、何とも妙な感慨である。

やがて出迎いのマイクロバスがやって来た。先方は一行十五名と云つておいたので、その程度のバスを差向けたらしいが、何分、ボンベだ、ウエットスーツだ、足ひれだ、重りだ、と荷物が多いため、後部座席にこれらを横込むと、人間は何とも窮屈な事になつてしまつた。

今日は半日しかないし、宿に行く前に南部戦跡を見て回る事となつた。ひめゆりの塔に始まって、徳児の塔、摩文仁が丘と回る。

二十五年前、二十才に滿たぬ少年が、或は少女が、この地に戦い、祖国の必勝を信じて、自らの命を絶つたかと思つると、当時の戦の事どもが、昨日の事の様にまざまざと思ひ起されて無量の感慨が胸をよぎる。

沖縄戦最後の地、摩文仁の丘に立てば、北方見はるかす限り一面の砂糖黍畑、晩夏の風には静かな波を打つ様も悲しく、いつしか潮の如く押し寄せる米軍、砂塵を巻上げて疾駆する戦車、等がその上にオーバードラップされ、あたかも、今自分がその戦の場に居る様な錯覚におそわれる。今や観光の地として慰霊碑の林立する摩文仁の丘、しかも尚米国の施政権下にあり、米軍の基地の島として、微妙な国際状況下にあるこの島を思うと、何とも複雑な気持である。

摩文仁の丘を最後に、バスは基地の町コザを通り、嘉手納飛行場のそばを駆けぬけ、一路今日の宿、恩納村山田温泉に向う。

八月二十四日、昨夜は旅の興奮からか、仲々寝付かれなかつたのに、朝六時に目が覚める。何となく頭が重い。

朝食後、今日の潜水ポイントを下見に行く、宿のグラスボート（船底にガラス窓をあげ、海底が見える様にした船）を出して行く。

岸より二百米程は水深二米足らずの遠浅が続く。これより五十米程はやや深く、その先に隆起珊瑚礁の礫がある。船はスピードを落して進む。限られた方形のガラス窓から、機重にも重なつた

テーブルサンゴが、或は白く、或は青く層を為し、その中を色あざやかなコバルトスズメ、プラスチックの板を沈めた様なチヨウチヨウ魚等が無数に泳いでいる。

今日は初日の事とて、あまり遠くへは行かず、この附近で身体をならす事とする。

吾々の仲間は待ちかねた様にマスク、ポンベをつけ、カメラ或はヤスと思ひ思ひの得物を手に飛込んで行く。私は水温が意外に高い(三十二度C)のと、スーツを着るのが面倒な為、素肌にマスク、足ひれだけで飛込んだ。シュノーケルで呼吸しながら、水面を波の間に漂い、時に四〜五米潜つては、魚にたむれ、目、ウニ、ナマコ等をつついてみる。とにかく水の透明度がすごい。日本海の水がきれいだと云つても、その比ではない。四・五十米先で潜っている仲間の姿が小さく、しかしはつきりと見える。無重力での宇宙遊泳を連想する。小一時間もそうやってプカプカやっていたらうか。何だか妙に胸がムカムカして来た。夢中で海底見物を楽しみながら波にただよっているうちに、酔ったらしい。昨夜の睡眠不足がたたつたのだろう。急いで舟に上つたが、舟もユラユラ。胸のムカムカは一層嵩じて来る。遂には情ない事とは相なつた。はるばる沖繩迄やって来て、洗面器と添寝しようとは思はなかつた。岸に上ればすぐに納まるとは聞いていたが、皆が初日の事とて、夢中で潜っているのに自分一人の為に舟を返えしてくれとも云えぬ。遂にこの日は、四時頃引上げる迄、突上げる

胸の内を一人押えて、沖繩の空をうらめしく眺めるのみであつた。明けて二十五日、今日も快晴。今日は宿より西方約二軒、真栄田岬へ舟をつける事とする。例のグラスボート二隻に分乗、海上約三十分走つて、目的地に到着。海岸までヤシの木が迫り、さすが南国を思はせる。白砂と見えた砂浜は、よくよく見ればすべて白珊瑚の破片、手の指程のものから、こわれて砂の様になつたものまで、すべて珊瑚、内地の熱帯魚売場に行けば、一升何十円とかで売っているやつが、海岸一面を埋めている。トラック一杯持つて帰つたら、いくらになるだろうなどと、あさましい事を考える。しかし又、見つめている内に、これらがすべて人骨の破片の様にも見えて来た。この島に散つた、彼我、十二万余の将兵の骨かと思えるのは、沖繩と云うこの土地のせいか、或は戦の中に青春を送つた自分の年のせいか。

この日も快晴、時折集中的な雨が降る事もあるが、全く部分的で、雨雲が通り過ぎると、後はウソの様に底ぬけに青い空から、太陽がキラキラ照りつけて来る。海岸は例によつて背丈程の遠浅が二、三百米も続く、今日は身体の論子も良い。愛用のニコラスをぶらさげて、気のむくまゝに海底の写真などをとりまくる。

夕食後、夜の探訪に那覇の街にくり出す。山田温泉より那覇まで、三十一軒、タクシーで一時間弱、しかし料金は三ドルと安い。ガイドブック片手に桜坂なる観光街にさまよい込んだが、三ノ宮あたりの裏通りとあまり違はぬ。小さい店がゴチャゴチャと軒を

ならべている。とあるスタンドバーに足を入れたが、明日も潜水がある事、深酒は禁物とアツサリ引上げる。ジョニコロスで五十セント、コーラも一杯五十セント、妙な具合だ。

次の朝、そろそろ宿の食事にあいて来た。何せ、朝から、ハムだペーコンだと脂っこいものばかり、何でも豚が安いとかでこうなるらしい。ミソ汁にタクワンを注文しても用意してませんと云う事だ。無理やり押し込んで、今日は万座毛の紳に向う。北上約一時間、ここは今までの所と違って遠浅もなく、いきなり数十米の深みに落込んでいる。水の透明度は更に良いが、それでも底は見えず、青黒い水が、無意味に見えるのみである。

さあ、今日はボンベを背負って、二、三十米潜ってみるか。と背負いかけたが、さあしまった。昨日迄水温の高いのを良い事にはだか泳いでいた上、他の連中が、サンオイル等ベタベタぬり込んでいるのを、あんな事は大和男子のする事じゃないと、白い目で見ていた為、すっかり背中が焼けたがれてしまつて、痛いなんの、ボンベが当たるとどうにも辛抱出来ない。仕方なく今日も素潜りと決め、一足先に跳込む。舟から三十米ばかり離れた所で、ふと見ると何やら黒い大きなものが、動いている。恐る恐る近付いてみると、何と全長二米もあろうかと思われるエイが五匹、編隊をなして、悠々と泳いでいる。急いで舟に居る仲間知らせる。連中も急いで入ろうとするが、スーッだ、ボンベだと準備に手間がかかる。自分が見のがさぬ様、追っかけていたが、皆がやっ

入って来た頃には遂に青黒い海の底に姿を消していた。

五日目、最後の日、朝から帰り仕度、各種の装備品を洗い、荷造りし、昼頃、バスで那覇の街に出て、ショッピングを楽しむ。沖縄の魅力の一つは、外国製品が安く買える事。この日の為に使はなかつたドルをポケットにねじ込んで、国際本通りへ。誰が連絡したのか、「勸迎、神戸アクアラング御一行様」などとショーウィンドに貼出した店に入つて、右往左往、ドルと円との換算表片手に、何だか安い様な、しかし要らぬものまで買つてしまいそうな憂な気分、結局、女房のハンドバッグと時計を買つて(本当ですぞ)後は、買はぬ程安いものはないとケチ根性出して止め、空港では又、洋酒売場に皆がむらがつている。なる程、内地で一万円もするジョニコロスが六ドル。これなら買はにやなるまいと、飲めもせぬのに、リミットの三本買つて、半値で売つてもまだもうかるなど思つて持帰つたが、結局、酒好きの友達に土産として四散してしまいパー。尋ねて来ても今はない。

夕闇迫る那覇空港を後に、あかね色に輝く雲海に向つて、機は舞上つた。



## プールへの思い

新10一米 田 啓 祐

わたしの住む、兵庫県 of 北部の小さな町でも川の汚れはひどくなり、とうてい川では泳げなくなってしまった。町にある五つの小学校では、つぎつぎとプールの建設がなされた。

それらのプールを見るたびに、胸につきあげてくるものがある。もう、十年余りも昔のプールへの情熱がよみがえってくるのである。うるか。ひとつの青春をそこで過ぎてきたなつかしさであろうか。

川や海で泳ぐのは好きだったけれど、プールで泳いだのは、神戸大学水泳部に入学してからだだった。姫路の、ひびわれて、めつたに底など見せたことのないプールでだった。

入学した四月、「ふんどしひとつでやれる」と、新入生への案内があった。たぶん、野田さんだったと思う。プールに出かけて行った。そして、初めて、プールで泳ぐことになったのである。

確か野田さんしかおられなくて、酒井さんは、まだ郷里から出てきておられなかったのではないかと思う。どういうわけか、いっしょの頃、はいった井上、高岡、山田君らもいなかったようである。

今でもあざやかに思い出されるのだが、初めてはいったプール

で、六百メートル泳がされたのである。野田さんは、横ですいすいと泳がれ、わたしも自分で、往復何回と教えながらついていった。だけど、すぐに、へたばかりかかってしまった。えらい。しんどい。プールサイドの壁に着くたびに、何度か立ちどまった。もう、このまま上がってしまおうかと思った。でも、大学にはいったまっ先のこんなことで、簡単にへこたれてしまうわけにもいかなかった。一回、一回と、十二回の往復までの時間の長さ。それでも少しづつ十二回に近づいていった。横にあった電柱の上のトランスが、プールサイドに近づくと見えなくて、もう少しだというはげましになった。そして、どうにか、こうにか、初めてのプールで六百メートル泳いだということになったのである。

こうして、大学での水泳生活は始まってしまったのである。今のわたしくしにも、苦しみや、自分の自信のなさから、なにもかも投げだしたくなる時もある。そんな時、ふと、情熱をかたむけたプールでのことも思い出すのである。泳げば、確実に、少しづつでもゴールに近づいていたのを思い出すのである。もうすこして、プールの壁だと、自分をはげましたことも思い出すのである。

兵庫県養父郡八鹿町九鹿

米 田 啓 祐

(勤務) 兵庫県養父郡八鹿町

八鹿小学校

## 四十一年度

### 水の中から雪の上へ

新11 平 岡 昭 朗

拜啓、御無沙汰致しております。過日、姫路支部の山口仁郎先輩が、水の中から雪の上へ、ということとで、凌泳会員が集まろうという提案をなされ、二月十四、十五日、神鍋名色スキー場「やましろや」なる民宿で開催致しました。

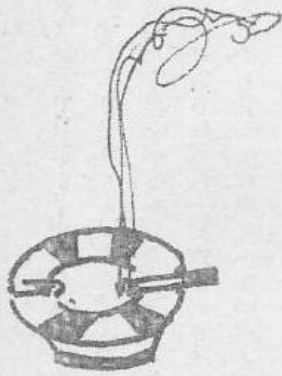
小生、現在兵庫県の西の端、県立相生産業高校で体育を担当しております。大学時代は六甲プールで滑るように泳ぐこと（？）ばかり練習しましたが、職業柄雪の上を滑ることも練習しなければならなくなり、雪山へ日参致しておりました。その頃（正確には四年前）山口さんがスキーを始められていて、それもソリはというと昔のスキー板でヒッコリーの単板、エッジのない、滑走面にはパラフィンをぬりまくと滑らないと滑らない、ゲレンデでは誰しもはいていないという代物でした。あれ以来ずっと一緒に滑っています。現在は、ソリはヘッドの二級品、胴前もいや足前もウエーデルン、アウフ、デム、デイッケン、シュニーの二級品、その上達の早いこと、前傾姿勢良ろしく見事なものです。よくもまあ、あゝうまくお腹を突き出して前傾がとれるものと感心致します。

「やましろや」という民宿ですが、此処は本校の小生と親しい先生の御親戚にあたり、神鍋スキーではいつも御世話になっているところとす。この「やましろや」は他では見られない鮎料理の全てを出してくれます。まるで温泉宿に來ているみたいです。いやこんなに美味しい料理を、それも盛沢山、裕安で出してくれる温泉宿はないでしょう。フライ、ツクリ、塩焼、味噌焼、天婦羅、酢の物、中華風のアンカケ、フライ、販物等それに山陰特産の松葉ガニ（小生は少々苦手なのですが）。この、水の中から雪の上へ、は此処に一つ目的があつたわけでしょう。昨年は山口仁郎氏、萩原武氏、高岡保宏氏、米田啓祐氏、そして小生の姫路支部でした。今年には神戸、大阪にも呼びかけようということで、五十数通案内状を書かして貰いましたが、出席者は石井義章氏、山口仁郎、御一家、背広姿で手拭い一本、気さくないで立ちの野田浩志氏、高岡御夫妻、萩原武氏、米田啓祐氏、そして小生とワイフの計十二人でした。

山口さんがカップの御旗を作られました。凌泳会では始めてだそうとす。神鍋ゲレンデの中央にこのカップの御旗を高々と御立てて、一同練習に汗しました。石井さん、信州本場でとられたパツチテストの腕前良ろしくスイスイとうまいものです。萩原さん、さすが平泳出身で、ゲレンデシユプリング、ジャンプクリスチヤニア、うまいものです。米田さん、ハチ高原地元出身で、どんな難解な斜面でも豪快に飛ばされるのはさすが八百米ロング出身で

す。高岡さん、奥さんがスキー始めてだそうでつきつきりて指導なされてましたが、時折見せられる華麗なフォームは、往年の水の王者の貫録です。小生とワイフはゲレンデの大穴あけ、これが競馬なら良いものと思いました。最後下山の際に石井さん、カッパの御旗を肩になびかせ「おれについてこい」と、大松監督はりに、後に一同一列にきれいなデモンストレーション、それは見事なものでした。「どここのスキークラブ？」と娘さんに聞かれた時は、石井さん悦にいられ、これ又結構でした。下の山小屋で野田さんに出合いました。「来たからには一度滑ってくる。」といわれ、貸スキーを肩にリフトで上げられ、一回滑られました。この代金七百円也。お気の毒なことをしました。

来年も又、開くことを約し、解散致しました。何分連休、土曜日は、民宿は他の泊り客が多く混雑しますので、少ない時が良からうということで、日曜日夜になります。皆様方、来年は是非御参加下さるよう御願ひ致します。



## 現役の部

### ああ、市大戦

法学部 一回生

大 曲 芳 郎

先日、伝統ある市大戦があり、神大は競泳、水球とも大敗をこらうりました。試合後のコンパでは、市大の連中から盛んに悲劇的な激励を浴びせられまして、一同しんみりとなったのでした。以前は神大が市大を圧倒していて現在と立場が逆だったそうで、この凌泳を御覧になられる諸先輩方は、にがにがしく思われていることでしょう。しかしながら、皆、頑張つて戦つたのですから、負けたことに悔いてはおりません。実力の差は致し方ないのです。部員数も市大に比べて圧倒的に少なく、コンパが終る時、歌つた（商神）の声は、幽かなものでした。でも、万物は流転す、で市大もそういつまでも優者の地位を占める事は出来ないと思ひます。我等はその過渡期に存在していると思ひ、いつの日か優者となることを夢みて、毎日練習に励んでおります。どうか先輩の旨

さん、暖かい御支援を願います。

現在、第三回合宿中で、蚊取線香のけぶる中でみんな思い思いに夜のひと時を過ごしています。僕の種目はクロール。入部当初は平泳ぎだったのですが、途中から三転向しました。ぎこちなかったフオームも、先輩の指導で改められ、目下記録が一日一日と伸びて喜んでいきます。参考までに七月二十日現在の僕のベストも述べますと、

百米 : 一分一九秒四

二百米 : 三分〇六秒

四百米 : 六分三九秒七

という次第です。そう手放して喜べる記録ではないのですが、それだからこそ、まだ伸びる可能性を秘めている訳で、自分の限界までつき進んでいく所存であります。

もう夜も更けました。明日の練習が待っています。それじゃ、お休みなさい。先輩ノ

参考までに市大戦の結果は、

競泳 : 九八対七一  
水球 : 一〇対二

でした。

## 全国国公立水泳競技大会

農学部 二年

佐 敦 定 雄

今年の夏の或る出来事を小生の日記をもとにして、思い出し思出し出し、一発ぶちかましてみたいと思います。

昭和四十六年八月八日、朝から神大水泳部の唯一のアルバイト先である第一銀行芦屋プールで、銀行の水泳大会があり、その手伝いに行く。水泳大会の競技進行がうまくいかず、主催者側が少しとまどっている様子なので、小生本部席にどつかと腰をおろし、色々とやってみる。さすがに本職ノ進行がスムーズになつてきて大いに感謝される。午後一時で手伝いをかんべんしてもらい、八月十一日、十二日の両日に鹿児島で行なわれる全国国公立水泳競技大会に参加の為、大阪駅へと急ぐ。大阪駅には団体参加の大阪府立大学、我れらが宿敵大阪府立大学の面々がいるではないか。小生一人ではあまりにも心細いので、日頃親しい大阪府立大学水泳部と行動を共にするよう勝手に決める。市大の面々も大いに歓迎してくれた。

さて午後三時二十分発の臨時急行列車で鹿児島島に行くこととなるのだが、この列車全車両座席指定。小生座席指定券なるものを所持してないではないか。しかし心配あるな。大阪府大のマネージャー

から、府大は指定券を買い過ぎたので小生への割りあてを含めて、(彼女・小生は小生が参加するのを知っていたらしい)市大水泳部に譲ったこのことを聞き安心する。

さて指定券の割りあてに際し、座席指定券と寝台券の二種類があった。小生、市大水泳部主将がダジャレを好むのを知っていたので、「神大」は「寝台」なんてことを言い、あっさり寝台券を分配してもらった。寝台車は冷房がきいていて涼しいのでございませぬ。他の車両は冷房がなく暑苦しいのでございませぬ。小生大いに喜んだのはいうまでもございませぬ。と、まあ、わあわあ言っておりますうちに列車の終点に着きました。しかしここは鹿児島じやございませぬ。八代でございませぬ。二、三日前の台風のために鹿児島本線が不通で、この列車はここで運転打ち切り。目的地までは列車を乗り変えて別の線を通って行くとのこと。時間とは見れば朝七時。腹の高鳴りを抑えて列車がくるまで八代市内で食事をとる。駅の改札を出てみると、駅前の建物はバラック造りの平屋建て。喫茶店もありませぬ。何とか食事にあつこうと必死に店を捜した所、一軒だけ開いておりました。その店はうなぎ屋。八代うなぎとか申しまして全国的に有名なそうなの。うなぎドンブリ注文したが、までどくらせどドンブリこない。汽車の時間はどんどんせまる。やつとききました。量の少ないうなぎドンブリ。お値段四百五十円。朝っぱらから精力つけて、どこに行くのか男一匹。まあ高い朝食となりました。

九日夕方旅館に着いて、十日朝から練習開始。練習プールを鹿児島大に捜してもらい市大の黒ん坊達(市大の人は皆真黒なので。小生は真白なのです。体質といおうか美肌の由であろうか、大会参加選手の中で一番色白だったように思います。)と一緒にいった所が鹿児島大学水産学部プール。このプール五十米九コースもありましたが、練習しているのは関西勢。

大阪府大が四つのコース。大阪府大四つのコース、神戸大学一つのコースを占領し、思い思いの練習を開始しました。しかしこのプール、水は大変冷たくその上に、塩水プールでございませぬ。身体は比重の関係でプカプカ浮き、バックなどは快適に泳げますが、小生の如きバタフライは全くもって、水面でバタバタもがいているかの様に思われます。身体を深く沈めて泳ぐように心掛け、練習しましたが、全然あきまへんわ。試合当日まで本場にこの点に苦労しました。それから市大と一緒に五十米インターバルを六本程度やりました。小生の横で市大のバタフライ第一人者のK氏が大変な勢いで泳ぐので、良けてはならじとこの私、練習だといふのに、それも試合前日の調整練習だといふのに、一生懸命泳ぎ、一度も負けませんでした。何と五十米を三十二秒でまともてしました。これには小生はもとより、一緒に練習していた大阪府大、大阪府大の諸君も驚嘆の声を出したほどでした。試合前にきつい練習をした事がないので、小生その時はこれからの試合に対して大いに不安をもったものでした。さて話は変わるが旅館の

ことを話しましょう。旅館旅館と言っても種々の旅館がござい  
ます。泊った旅館の名は「リバーサイドホテル大一荘」とかいって  
鹿兒島では立派なホテルだそうです。

小生は個人参加ですので一人部屋。大阪市大は団体ですのでタ  
コ部屋。一人優越感らしきものを味わったのでございます。テレ  
ビはあつてクーラーもあり、フトンもあつて（あたりまえのこと  
ですね）・・・ほんまによい部屋でした。

十一日、いよいよ競技の日がやつてまいりました。大会一日目  
の種目は小生があまり得意でない二〇〇米バタフライ。予選の時、  
選手招集所でいろいろと前評判を聞いておきますと、身もすくむよ  
うな好記録の持主ばかりのように聞かされ、小生の如き気弱者  
はビクビクのしどおしでした。予選B組で出場し、好スタートを  
切り、結局予選B組を一位で通過。決勝のコースは六コース。隣  
りの五コースは大会記録をもつ防衛大学の某選手。必死の思い  
で彼についていったが、実力の差は如何ともしがたく、一五〇米  
をターンすると半身長ほど離され、彼は調子よく小生の前を泳い  
でいく。足でも引っぱってやろうかななどと、軽薄な考えを起し  
たのもこの時でした。結局前半から積極的に飛び出し隣のコース  
についていったので二〇〇米バタフライ三位で、かろうじて入賞  
できました。この時のタイムは二分三八秒〇で、小生の自己新記  
録でした。表彰式の時は大変うれしかった。というのは来年は鹿  
児島団体の為、本番さながらの段取りで表彰式が行なわれ、晴れ

晴れしい気持で一杯でした。関西勢で六位までに入賞したのは小  
生一人で、ありがたいことに大阪府大、大阪市大の人達からも大  
いに祝福されました。表彰が終つてから聞いたことだが、小生は  
関西勢以外のどこの大学にもマークされていなかったとかで、全  
くの伏兵的存在だったそうです。おかげで神大の名前が売れまし  
た。

翌日の十二日は一〇〇米バタフライ。予選は軽く通過して、決  
勝では初めからノーブレッシングで飛び出し、タイムは一分〇  
七秒〇でこれも又二位に入賞できました。このように全国国公立  
大会に初参加することができましたが、私にとっては色々の面  
で大変有意義な思い出深い大会だったように思います。個人参加し  
て感じることは、今回の大会でも個人参加はたった二名でした。  
やっぱり一人でくるより団体できた方が何か心強い気持がしま  
すね。近い将来、いや来年こそは神大水泳部が団体に全国大会に  
参加できるように、一部員として頑張るつもりです。

それから大阪市立大学水泳部の諸君が小生をまるで市大水泳部  
の一員のように扱ってくれたのは、市大と神大とが長い間の競争  
相手であり宿敵であるが由、良い意味で何か他校とは違った気持  
をいだかせ、又親近感をも覚えさせた結果ではないかと思ひます。  
昔からの両クラブ間の交流や伝統の意味が漠然とでもわかったよ  
うに思えます。長々とくだらないことを書きました。お許し下さ  
い。

## 部員横顔スケッチ

二 年 生

二年理学部物理

植 西 勝

この凌泳を発行するにあたり、現役部員の原稿が一向に集まらないというので、やむなく且つ積極的に、部員紹介でも、したいと思えます。ただし、僕と同年年である二年生に限ることにして、その前に自己紹介から。

僕は、二十二年前の九月二日、福岡県は飯塚坑の炭鉱町に生まれた。石油産業の進出により廃坑になる九年前まで、住んでいました。

山の中だから、水に親しむ機会に恵まれないのは当然。しかし、人間の水に対する郷愁は断ちがたく、きたない泥水の池で、にぎやかに泳いでいたのを、幼心に覚えています。

僕は、もっぱら、炭鉱町の広い浴場を泳ぎ場としました。だから冷たい水には弱く、まともに泳げるようになったのは中学二年。

六甲台で二年間の水泳生活を終え今では、その魅力にとりつかれた一人です。さて遅れましたが、三人の二年部員の紹介をしたいと思います。

◎ 佐敷 定雄 農学部畜産

サシキでもサジキでも、好きな方で読んで下さい。本人にもわからないそうですから。入学以前に既に六年間十二の経験の持ち主。バツタを飛んでは、常に神大の得点源となり、「神大に佐敷あり」は衆目の見るところ。

性格は、いたって明るく、そうぞうしい。人なつっこく、友達つき合いもよく、多方面に知人を持ち、評判もいいうだ。またギターを弾いたり、歌を歌ったりする器用さも持ち合わせている。

高校水泳部では主将も努めた経験があり、来年の主将として、実力、指導力とも申し分ないが、フアイトに欠けるのと、むら気があるのとがたまにきず。また水球への意欲がとほしく、水球組との活発な論議が行なわれるのは必至。

◎ 印南 修三 農学部農業生産工学

愛媛県は新浜の産。幼き頃より海に親しみ、学校にプールこそなかったが、泳ぐことには自信があつたらしく、海の浅瀬で百米背泳の世界記録に挑戦したというエピソードがある。

今年バックを泳いで二年目、二〇〇米背が二分四七秒は、未経験者にしては立派。一米七七センチの長身と、強いビートを使う。スローストロークの泳ぎは、個性と迫力がある。来年は、今

年以上に期待されている。また水球にも大なる勵志を燃やしている。

部内においては、人なつっこいはがらかな性格と、のんびりした四国弁で常に周囲が明るい。石坂浩二を若くしたような、二枚目のマスクは、年上の女に可愛いがられると、もっぱらの評判。僕と彼は、互いに二枚目同志のせいとか、よく気が合い、彼のアパートにも、よく邪魔しに行く。

だが、合宿などで疲れた時は、ムツとして、笑顔が消える。一年生ににらみがきくのは、この時ぐらいのものだとか。

◎ 長谷川 健 経済学部

入部した当時は、泳ぐよりも、相撲を取った方が良いのではないかという声が聞かれた程、ズングリしていた体つきも、一年間の精進の結果、六キロも減り、水泳の貢献度に新ためて部員一同目を見張った。

人づき合いがうまく、広範囲な知識は、経済性且つマネージャーにピッタリ。年よりも幾分老けて見え、髪も長からず短かからず。服装も、派手なものは避け、タイトの時などは、ダークブルーのスーツを着ていくという形式派。白カッターに、ネクタイをしめれば大会社の係長には見えるという。難を言えば、若さ、人情味、思いやりに欠ける面があることだろうか。

フリーの短距離を泳いでいるが、もうひとつスタミナ不足が目立ち、持久力養成がこれからの課題。

水球においては、ゴールを守っているが、その迫力においては、敵のフォアアトもたじたじ。

一年 生

◎ 藤森 一男

七年の水泳歴を誇り、四種目を器用にこなす期待の大物。大阪の片田舎から二時間もかけて通学しているが、練習にはよく顔を出す水泳好き。その為か、要素負債量の測定時には、超人的回復力を示した。一生懸命泳がなかつたという説も有力である。合宿の度に麻雀の腕を上げる割には、タイムが伸び悩んでいるが、来年は今年以上に活躍して欲しいものです。名門大阪住吉高校出身。工学部の秀才。

◎ 渡辺 義治

水泳部一の長身。その長身を買われて三商大戦ではゴールキーパーのポジションをあてがわれた。危なっかしいボール扱いで、先輩O・Bをハラハラさせた所など、なかなかの役者でもある。現在プレストの一番手。初期の泳ぎは、頭をあげていた為、「恐竜泳ぎ」・「海水浴」などと汚名を浴びたが、成長株の筆頭。酒を飲むとすぐ赤くなり、もう飲めないなどと言うが、其の実無類

瓜 生 誠 二郎

の酒好き。名門岡山大安寺高校出身。工学部の英才。

◎ 大曲 芳郎

無類の親孝行者。親に負担をかけまいと、日夜アルバイトに精出してゐる。又夏休みの合宿においては、親の情を断ち切り難く、遅れて参加したほど。(これは蛇足でした。) 四種目をそつなくこなすが、抜群に速いという種目もないみたい。人類愛に満ちて、人の嫌がる事を率先してやり、世話好きで、よく気がつき、責任感が強い所など、次期マネージャーの有力候補。しいて欠点をあげれば、酒を飲むとすぐ寝る事である。名門福岡三池高校出身。法学部の偉才。

◎ 須野 善夫

運転免許を取るのに手間取ったが、今ではさつそうと「ミニカ」を乗り回している。プレストを泳ぐ。水泳部において新しい対人関係を開拓しようとする意欲は十分であるが、もう一つ、突っ込みが足りなかつたみたい。しかし、前期試験においては、国史のノートを写し取り、我々の危機を救つたのは特筆される。名門神戸夢野台高校出身。経済学部の逸才。

◎ 柴垣 和男

ボロ経験者。大排水量の不沈戦艦ボトムキン号と噂されている。今年に腎臓の反乱で戦線に参加できなかったのは痛い。しかし来年は、その巨体をいかして敵艦隊を沈めまくるであろう。同時にフリーショットでの活躍も期待される。名門熊本高校出身。

経営学部の鬼才。

◎ 米満 聡

彼は大変運の悪い男です。最初の合宿で倒れ、以来万年風邪につきまわされていましたが、陸トレには元気に参加できるそうです。プレストとフリーを泳ぐがすべて未知数。頑張り様しいでは、伸びるセンスの良さがある。水球のホールなど投げるより、蹴る方が多い位のサッカー好き。名門鹿児島中央高校出身。経営学部の俊才。

◎ 藤井 陽子

水泳部唯一人の貴重な女性。フリーを泳ぐ。冷たい水でもロングを裕々と泳ぐ所はさすが。女性一人で何かと不都合な面もあるだろうが、頑張り抜いて神大水泳部女子の発展の礎石となつて欲しいものです。名門大阪大手前高校出身。理学部の才媛。

◎ 瓜生 誠二郎

たかりの常習犯。始末の悪い事に酒好きで、彼にたかられて泣いている先輩はその教知れず。バックを泳ぐが、フリーはまったく駄目という変り者。シーズンオフになると毎日風呂に行く様になったという水中毒者。その為か頭が鈍く、大阪府大に行くのに電車を乗り越して和歌山県まで行ったと言うエピソードの持主。パチンコ、麻雀などは勝った試しがないと言う男。しいて長所をあげるなら、酒癖が良い事である。名門福岡鞍手高校出身。経済学部の鈍才。

## 昭和四十六年度凌泳会総会

岡 田 重 義

昭和四十六年度凌泳会総会。五月二十二日に六甲台の教官食堂で。

一 昭和四十五年度一般経過報告

二 昭和四十五年度会計報告及び昭和四十六年度予算案審議

三 凌泳会会費値上げ案検討

四 昭和四十六年度行事予定

五 その他審議事項

六 現役新入部員紹介

の議題の下に開かれました。議事経過は次の通りです。

一 昭和四十五年度一般経過報告

凌泳会は、会員相互の親睦を目的に、二、三の計画を進めました。神戸近郊の会員の方にはか御連絡をして居りませんでした。十月と四月の七ヶ月間、毎月第二土曜日の夕方に、神戸市の市菅苅藻プールに集まって、水（正確には湯）しぶきを上げて居ります。五月と九月第二土曜日に六甲台のプールに集まることになって居ります。御家族御同伴で番つて御参加下さい。

二月には、姫路在住の会員の肝入りで、神鍋スキー場で凌

泳スキー会を開きました。今年度の会誌、凌泳にも、関連記事の

記事の投稿もあると思います。日が暮れてからの、タタミの上でのスキーがことのほか盛会だった様聞いております。

二 昭和四十五年度会計報告及び昭和四十六年度予算案審議

別記の如く、会計報告、予算案が承認されました。御報告致します。

三 凌泳会費値上げ案検討

数年来、会員各位からいろいろ御意見を頂いて居た問題でもあり、活潑に意見が交されました。参会者が僅少であったため、今年度は従来通り、年会費は一、五〇〇円とし、

一、五〇〇円以上提出頂いた会員の方からは、一、五〇〇円を越えた額を寄附頂いたこととして処理することとして、値上げ実施を見送り、別記の如く、会員各位から御意見を頂き、その結果を御報告して、会員全部の賛否を問う事になりました。別記アンケートに御協力頂きたく存じます。

記

凌泳会費値上げについてのアンケート御願ひ。

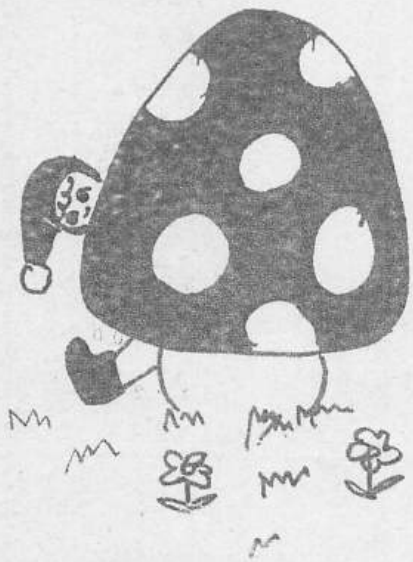
凌泳会総会では、次の二つの意見が出ました。この二つの案について、御意見を、またその他になにか案があれば御知らせ下さい。この結果をいくつかの案にまとめて、会員各位から、

賛否を頂きたく考へて居ります。御協力御願ひ致します。

一 現在凌泳会会員の数は一九〇名余ですが、現在会費を提出頂く会員は、その四〇%弱なので、会費の額はそのままに据置いて、もっと多くの会員から提出頂ける様な方法を考慮すべきである。

二 現在の会費の額は八年前から据置きのみである。現行の社会情勢からすれば、会費の値上げは止むを得ない。その値上げの額と、提出する方法についての意見を調整すべきである。

以上



## 昭和45年度会計報告

水 泳 部

〔収入の部〕	前年度繰越	8,341円
	部員アルバイト	25,200
	凌泳会援助	118,614
	会合費	34,100
	合宿費	88,600
	育友会援助	12,079
	計	286,934

〔支出の部〕	水連登録費	11,000円
	合宿費	111,001
	会合費	46,866
	医薬・消毒費	12,490
	設備費	16,280
	交通・通信費	8,243
	燃料費	3,000
	試合費 (三商戦遠征他)	38,824
	特別費 (藤井先生香典)	3,000
	事務・雑費	10,230
	計	

## 昭和45年度会計報告

### 凌 泳 会

〔収入の部〕	凌 泳 会 費	110,000円
	凌 泳 会 寄 付 金	103,123
	計	213,123

〔支出の部〕	「凌泳」発行費	32,100円
	水 泳 部 援 助	118,614
	会 合 費	13,979
	通 信 費	20,980
	交 通 費	18,450
	特 別 費	9,000
	計	213,123

## 昭和 4 5 年 度 予 算

### 水 泳 部

〔収入の部〕	育友会援助	30,000円
	部員アルバイト	25,000
	凌泳会援助	130,000
	会合費	50,000
	合宿費	200,000
	計	435,000

〔支出の部〕	水連登録費	15,000円
	合宿費	300,000
	会合費	50,000
	設備費	25,000
	医薬・衛生費	5,000
	交通費	10,000
	通信費	5,000
	雑費	25,000
	計	435,000

# 昭和 4 5 年 度 予 算

## 凌 泳 会

〔収入の部〕	凌 泳 会 費	1 5 0,0 0 0 円
	凌 泳 会 寄 付 金	7 0,0 0 0
	計	2 2 0,0 0 0

〔支出の部〕	「 凌 泳 」 発 行 費	3 5,0 0 0 円
	水 泳 部 援 助	1 3 0,0 0 0
	会 合 費	1 5,0 0 0
	通 信 費	2 0,0 0 0
	交 通 費	2 0,0 0 0
	計	2 2 0,0 0 0

# 昭和46年度戦績

☆ 京阪神3大学戦

昭和46年6月13日

大阪プール

・400m混継泳

神大チーム 5-30-1 3位  
(1位 京大チーム 5-01-3)

・400m個混泳

印南 修三 6-45-8 4位  
(1位 藤井 祐一 (京大)  
6-20-0)

・800m自由形

藤井 元洋 12-40-6 4位  
(1位 脇坂 秀樹 (阪大)  
11-23-0)

・1000m自由形

佐敷 定雄 1-05-4 1位

・200m背泳

印南 修三 2-54-2 1位  
瓜生誠二郎 3-09-1 4位  
藤森 一男 3-22-2 6位

・200m個混泳

藤森 一男 3-09-5 3位  
植西 勝 3-27-8 6位  
(1位 徳田 成美(京大)  
2-49-1)

・400m自由形

藤井 元洋 6-04-2 6位  
(1位 武田 良雄(京大)  
5-25-5)

・200m蝶泳

佐敷 定雄 2-48-9 1位

・800m継泳

神大チーム 11-15-0 3位  
(1位 京大チーム 10-19-5)

総合

1位 京都大学 90点  
2位 大阪大学 77点  
3位 神戸大学 44点

☆ 関西学生選手権水上競技大会

昭和46年7月8日・9日

大阪プール

・800m自由形

藤井 元洋 13-12-3 6位  
(1位 河野 博(桃山)  
11-33-5)

・200m背泳

印南 修三 2-57-0 2位  
瓜生誠二郎 2-58-5 3位  
(1位 平木 雄二(大教大)  
2-54-5)

・100m蝶泳

佐敷 定雄 1-07-0 1位

・200m蝶泳

佐敷 定雄 2-42-4 1位

・100m背泳

印南 修三 1-21-1 1位  
瓜生誠二郎 1-24-3 4位

総合 1位 桃山学院大学  
2位 大阪教育大学  
3位 神戸大学 (3部残留)  
(以下略)

☆ 対大阪市立大学戦

昭和46年7月18日

市大プール

・400m混継泳

神大チーム 5-24-4 2位  
(1位 市大チーム 4-55-3)

・200m平泳

渡辺 義治 3-32-0 4位  
須野 善夫 3-47-1 5位  
(1位 藤本 知 2-52-4)

・400m自由形

藤井 元洋 6-01-8 3位  
植西 勝 6-26-3 5位  
長谷川 健 6-39-6 6位  
(1位 山口 宗司(市大)  
5-37-2)

・200m蝶泳

佐敷 定雄 2-48-0 1位  
藤森 一男 3-14-9 3位  
岡本 優 3-53-8 5位

・200m背泳

瓜生誠二郎	2-58-0	3位
印南 修三	3-03-1	4位
大曲 芳郎	3-41-7	6位

(1位 末谷 敏夫(市大))

2-42-9)

・100m自由形

岡本 優	1-15-2	4位
長谷川 健	1-16-0	5位
大曲 芳郎	1-19-4	6位

(1位 山田 章夫(市大))

1-06-4)

・800m自由形

佐敷 定雄	11-35-6	1位
勝井 元洋	12-51-0	3位
植西 勝	13-30-8	6位

・200m個混泳

藤森 一男	2-59-4	1位
印南 修三	3-07-8	3位
瓜生誠二郎	3-16-3	4位

総合 大阪市立大学 98点

神戸大学 71点

水球 市大10 - 2神戸

☆ 関西国公立大学水泳競技大会

昭和46年7月30日・31日

於 大阪府大プール

・100m蝶泳

佐敷 定雄	1-06-2	1位
-------	--------	----

・200m蝶泳

佐敷 定雄	2-39-8	1位
-------	--------	----

総合 6位

☆ 全国国公立大学水泳競技大会

昭和46年8月11日・12日

於 鹿児島鴨池国体プール

・100m蝶泳

佐敷 定雄	1-07-0	2位
-------	--------	----

・200m蝶泳

佐敷 定雄	2-38-0	3位
-------	--------	----

(佐敷君 個人参加)

近畿地区国立大学体育大会

昭和46年8月29日・30日

於 神戸商船大プール

・1000蝶泳

佐敷 定雄 1-05-2 1位  
(大会新)

・2000蝶泳

佐敷 定雄 2-39-4 2位  
(1位 塩盛 勝彦(和歌大)  
2-39-0)

・1000m背泳

印南 修三 1-18-6 4位  
瓜生誠二郎 1-19-5 5位  
(1位 平木 雄三 1-13-7)

・2000背泳

印南 修三 2-47-7 2位  
瓜生誠二郎 2-55-5 6位  
(1位 平木 雄三(大教大)

・400混継泳

神大チーム 5-07-1 6位  
(1位 神船大チーム 4-45-4)

2-45-0)

総合 6位

☆ 旧3商大水上競技大会

昭和46年9月12日

神大プール

・400m混継泳

神大チーム 5-14-0 2位  
(1位 市大チーム 4-48-5)

・2000m平泳

渡辺 義治 3-22-7 4位  
岡本 俊 3-36-0 5位  
(1位 今枝 幸治(市大)

・400m自由形

藤井 元洋 5-52-7 2位  
大曲 芳郎 7-12-8 5位  
(1位 山口 宗司(市大)  
5-29-0)

2-49-3)

・2000m背泳

印南 修三 2-52-3 3位  
瓜生誠二郎 3-03-2 4位  
(1位 末谷 敏男(市大)

・2000m蝶泳

佐敷 定雄 2-43-4 1位  
藤森 一男 3-18-7 3位

2-43-0)

・1000m自由形

長谷川 健 1-14-1 4位  
大曲 芳郎 1-25-0 6位

(1位 山田 章夫(市大)

1-04-6)

・200m個混泳

佐敷 定雄 2-50-2 1位  
藤森 一男 2-54-4 2位

・800m継 泳

神大チーム 11-04-9 2位

(1位 市大チーム) 10-21-7)

・800m自由形

瓜生誠二郎 12-46-2 4位  
植西 勝 13-37-0 5位

(1位 山口 宗司(市大)

11-18-3)

総合 1位 大阪市立大学 85点  
2位 神戸大学 61点  
3位 一橋大学 36点

水 球 市大 7-3 一橋  
神戸 2-5 一橋  
神戸 3-4 市大

1 位 大阪市立大学  
2 位 一橋大学  
3 位 神戸大学

## 現役部員ベストタイム表

1971.10.1現在

氏名	学年	種目	100m	200m	400m	800m
藤井 元洋	3	フリー	1-13-8	2-41-0	5-46-2	12-15-0
岡本 優	3	フリー	1-11-4	2-50-2	6-10-8	13-13-0
佐敷 定雄	2	フリー	1-04-8	2-28-8	5-24-2	11-33-5
長谷川 健	2	フリー	1-11-8	2-46-8	6-18-0	13-15-4
植西 勝	2	フリー	1-18-0	2-49-0	6-10-8	12-50-8
藤森 一男	1	フリー	1-11-8	2-40-0		
大曲 芳郎	1	フリー	1-18-7	2-58-8		
渡辺 義治	1	ブレスト	1-27-9	3-21-3		
須野 善夫	1	ブレスト				
印南 修三	2	バ ッ ク	1-16-7	2-47-7		
瓜生誠二郎	1	バ ッ ク	1-19-5	2-55-5		
佐敷 定雄	2	バタフライ	1-05-2	2-38-0		
藤森 一男	1	バタフライ	1-23-2	3-04-1		
佐敷 定雄	2	個人メドレー		2-50-2		
藤森 一男	1	個人メドレー		2-54-5		

# 凌 泳 会 々 則

## 第 一 章 総 則

第 一 条 (名 称) 本会は凌泳会と称する。

第 二 条 (事務所) 本会は事務所を神戸市灘区六甲台町・神戸大学に置くこととし、宛名は同大学学生課気付「凌泳会」とする。

第 三 条 (目 的) 本会は会員相互の連絡と親睦を図ると共に、神戸大学水泳部の発展に寄与することを目的とする。

第 四 条 (事 業) 本会は前条の目的を達成する為に左記の事業を行なう。

一、会誌「凌泳」の発行

二、会員相互の連絡

三、定例総会及び各種の親睦会合

四、神戸大学水泳部発展の為の指導及び援助

五、その他、本会の目的を達成するに必要な事項

第 五 条 (会則の改廃) 本会則の制定及び変更は総会の決議によって行なう。

## 第 二 章 会 員

第 六 条 (会 員) 本会の会員を分けて正会員、特別会員及び存学会員とする。

第 七 条 (正会員) 正会員とは次のものを云う。

国立神戸高等商業学校 国立神戸商業大学 神戸経済大学 神戸大学

以上の諸学校に於て、在学中水泳部に所属したもの。

第 八 条 (特別会員) 特別会員とは次のものを云う。

第九條（存学会員）

一、前条の諸学校で水泳部々長及び副部長であつた者及び現在ある者。  
二、その他総会の決議によつて推薦した者。  
在学会員とは次のものを云う。  
現在、神戸大学々生で水泳部に所属する者。

第十條（会費）

正会員は会費として年額一、五〇〇円を当会へ納入する。

第三章 役員

第十一條（役員）

本会には左記の役員を置く。

会長 一名

副会長 一名

幹事長 一名

本部幹事 若干名

支部幹事 若干名

会計幹事 二名以内

第十二條（改選）

役員は改選は総会の決議によつて行なう。

第十三條（任期）

役員は任期は一年とし再選を妨げない。

第十四條（会長）

会長は本会を代表し且つ統轄する。

第十五條（副会長）

副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

第十六條（幹事長及び本部幹事）

幹事長及び本部幹事は会長、副会長を補佐し総括的会務の執行に当る。

第十七條（支部幹事）

支部幹事は各支部の事務を執行すると共に、本部の諸活動に協力する。

第十八條（会計幹事）

会計幹事は会計の監査に当る。

第十九条 (役員会) 会長、幹事長、本部幹事を以て、役員会を組織し、役員の決議に従い会務の運営に当る。  
第二十条 (招集) 役員会は会長これを招集する。

#### 第四章 総会

第二十一条 (招集) 総会は少くとも二週間以前に会議の目的を明らかにした通知を以て会長これを招集する。  
第二十二条 (時期) 総会は毎年五月に開催するものとし、臨時総会は必要に応じて招集する。  
第二十三条 (議決) 総会の決議は出席会員の過半数を以て決する。  
但し、当該議事につき、書面を以てあらかじめ意志を表示したものは出席とみなす。

#### 第五章 会計

第二十四条 (経理) 本会の経理は、会費、寄附金及びその他の収入によつて賄う。  
第二十五条 (決算) 本会の収支決算については、会計の監査を経た上、春季総会に於て報告し、その承認を受ける。  
第二十六条 (期間) 本会の会計年度は毎年四月一日より三月三十一日までとする。

#### 第六章 雑則

第二十七条 本会則は昭和三十九年五月十六日より発効する。

以上



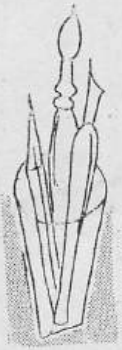


# 編 集 後 記

凌泳十九号をお届け致します。七月には発行しようと思っ  
 ていたのが、一日一日又一日とのび、とうとう大巾に連れて  
 しまいました。毎年のことながら申し訳ございません。  
 今年から部員紹介のページを作ってみました。いかゞで  
 ございましょうか。これからも続けていきたいと思ってお  
 ります。

総会議事録にもでておりましたが、会費値上げについて来  
 年の総会までにはアンケートをさしあげたいと思ってお  
 ります。その節はよろしくお願ひします。  
 来年は旧三商大戦が第四十回大会を迎えます。三商大戦に  
 まつわる思い出など多数の原稿をお待ちしております。

(長谷川 記)



昭和四十六年十一月一日発行	発行所	編 集	発行者	印刷所
神戶市灘区六甲台町	凌 泳 会	神戶大学水泳部	長 谷 川 健	神戶市東灘区住吉町垣内三
		凌 泳 部		小野印刷株式会社
				電話 八五一〇六〇一